

■オーストラリアと男女共同参画
社会風土が女性の社会進出を支える
10月28日、オーストラリア大使館
政治部一等書記官ダヴィーナ・マコー
ネルさんをお迎えし、「オーストラリ
アと男女共同参画」のテーマで講座
が開催されました。



講師 袖井孝子さん

地域の絆を強めて
いくことが必要で
あるというご指摘
でした。

10月12日の講師は、お茶の水女子
大学名誉教授の袖井孝子さんです。
戦後から現代まで、日本の社会と家
族の変遷についてその時々の出来事
や人々の意識の変化などを交えてお
話いただきました。そして今、リス
トラや倒産、離婚、災害など、誰も
が弱者になる可能性のあるこの時代
において目指すべき社会は、弱者を
見捨てない社会、SOSが発信でき
受け止められる社会であり、そのた
めには一人ひとりが弱者を受け入れ
る気持ちをもち、
地域の絆を強めて
いくことが必要で
あるというご指摘
でした。

■誰もが安心して暮らせる社会
を目指して

10月12日の講師は、お茶の水女子
大学名誉教授の袖井孝子さんです。
戦後から現代まで、日本の社会と家
族の変遷についてその時々の出来事
や人々の意識の変化などを交えてお
話いただきました。そして今、リス
トラや倒産、離婚、災害など、誰も
が弱者になる可能性のあるこの時代
において目指すべき社会は、弱者を
見捨てない社会、SOSが発信でき
受け止められる社会であり、そのた
めには一人ひとりが弱者を受け入れ
る気持ちをもち、
地域の絆を強めて
いくことが必要で
あるというご指摘
でした。

男女共同参画講座
世界が見える！ 考え方が変
わる！ 誰でも実践できる！
～男女共同参画を知ろう～



講師 ダヴィーナ・マコーネルさん

外交官を取巻
く状況は早くか
ら長期有給休暇、
育児支援、家族
の協力と機会均等を求めて改善され
ており、大使館の女性比率は約6割
の65人となりました。ジュリア・ギ
ラード首相をはじめ、活躍する公務
員の上級管理職の女性比率も約36%
に達しています。

女性の労働参加率も約58%と、
「オーギー・ハズバンド」の存在が顕
著な要因ではないでしょうか。彼ら
は家事を手伝ったり買い物荷物を
運んだり、家族との共有時間を大切
にし、ワイフを褒めることもかし
ません。男性の協力のあり方をも問
うテーマでした。

席上、友好へのご配慮で終始流暢
な日本語でお話されたのがとても印
象的でした。事業協力スタッフ 村田進益

■事業協力スタッフ企画講演会
笑いは百薬の長
男女共同参画も笑いから



講師 松井寿一さん

11月6日、医療ジャーナリストの
松井寿一さんの講演会「笑いは百薬
の長」が開催されました。ジョーク
や駄洒落ならぬ
「ザ・洒落」を
交えた楽しいお
話に、笑いつぱ



ゲスト 鈴木恭子さん



「写真で語る中央区の女性たち」
これまで・いま・これから」のテー
マで開催されてきた今年度の水曜イ
ブニングトークの最終回が、10月5
日に開催されま

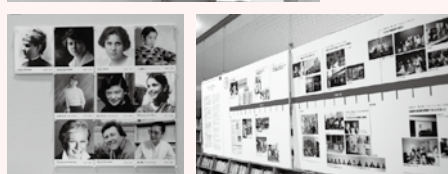
なしのまま2
時間があつと
いう間に過ぎ
ました。リウ
マチ因子とな
る物質を減ら
したり、癌細
胞を破壊するナチュラルキラー細胞
を増やしたり、薬に勝るとも劣らな
い、健康促進に及ぼす笑いの力にびっ
くり！「笑うこと」は、いつでもど
こでも、ひとりでも仲間と一緒に、
お金もかからずすぐに始められる健
康法。「1日に100回くらい笑うと
健康に良い」という松井氏の説にな
らい、これから私も、もっともっと笑
って生きていこうと思います。



講演会を企画した事業協力スタッフ、
左から山竹由美子さん、小出恵子さ
ん、田中寛子さん、吉澤麗子さん

■日米女性建築家の
パイオニアたちの肖像

10月5日から11月6日までブー
ク21の1階で、「未来へー女性建築家の
パイオニアたちの肖像展」が開催さ
れました。日ごろあまり触れる機
会のない、女性建築家の黎明期を築
いた方々の活動を知ることができま
した。日本で本格的に女性建築家が
活躍しはじめたのは戦後になってから
のこと。わずか60年ですが、私た
ちの住まいやまちを
豊かにしてくれたこ
とがわかります。



Work Life Balance

中央区ワーク・ライフ・バランス シンポジウム 報告

ワーク・ライフ・バランスで豊かに生きる

成功事例に学ぶ

経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス

10月18日、区役所8階大会議室でワーク・ライフ・バランスを考
えるシンポジウムが開催されました。渥美由喜さんの基調講演と
中央区ワーク・ライフ・バランス認定企業による取り組み事例に
ついて報告がありました。

●基調講演

経営戦略としてのワーク・
ライフ・バランス

渥美由喜さん (内閣府男女共同
参画会議専門委員)

ワーク・ライフ・バランスと
は、仕事と生活が「相乗効果の
関係」にあることです。家庭生
活の充実や自己研鑽など質の高
い生活が質の高い仕事につな
がり、メリハリのある仕事が生
活の余裕を生みます。



ワーク・ライフ・バランスを
進めるためには、社員が休ん
でも仕事が進まないように「業
務をオープンにして共有化する
こと」、ライフを充実させワー
クを圧縮できるように「たえざ
る業務改善を行うこと」、自分
の時間だけでなく同僚の時間
にも敬意を
払い「お互
い様、思い
やりの気持
ちをもつこ

と」が大切です。
日本の労働人口は減少して
いきます。働き手が企業を選
時代になり、働きやすい企業に
人は集まります。「働きやすさ」
が「やる気をアップ」させ、「人
材の確保」や「労働の質」につ
ながります。この正の連鎖を作
り上げるのがワーク・ライフ・
バランスです。



中小企業の成功事例をご紹介
します。島根県の従業員22名の
塗装店の事例です。若手従業員
が定着せず人材の確保に悩ん
だところ、結局到達し
たのが従業員一人ひとり
に向けたきめ細かい取り
組みでした。育児や介護
との両立支援、有給休暇
や振り替え休日の取得推
奨などです。その結果、
従業員の定着率は向上
し、また休暇中の従業員
の仕事代行すること

代表取締役 星野晃一郎さん
長時間労働と社員の定着が課題でし
たが、ITを活用した社内改革を図り、ペー
パレス化、キャッシュレス化、プライバシー
マーク取得を目指したクリーン化などを
進めるうちに業務改善と効率化が行われ、
残業時間が激減し退職者も減り
ました。社員の発案により就業
規則を改定し、育児休業の充実
や在宅勤務、フレックシユ休暇
なども整えています。地域貢献
にも取り組み、最近では徳島県
の過疎集落におけるIT企業
のサテライトオフィス誘致の実



証実験にも参加しています。
(株)東京コンサル
ト 取締役 CFO 佐藤よし美さん
社員の半数が女性であるにもかかわ
らず出産退職が慣例となっていたところ、育
児休暇の取得希望があり、ワーク・ライフ・
バランスに取り組み始めました。全社員に
対応すべく残業時間の是正や休職者が
出たときの体制、フレックスタイムな
どを整備しましたが、限られた資金や
人材で取り組むため、単に制度を作る
のではなく文化として根付かせること
に重点を置きました。社員が自分たち
で考え運用するよう意識改革や自己管
理を重視しています。

女性のチャレンジ支援
ブーケ21 輝きたい女性のための
ハッピーキャリアアカレツジ

結婚・出産・子育てや介護により
離職した女性のためのセミナーです。
いますぐ働きたい人も、じっくり
準備してから働きたい人も、一緒にこ
れからの仕事と人生のことを学んで
いきましょう。
全6回のセミナーを通じて、自分
の望みどおりの再就職を成功させる
ために必要な知識と自己表現力、自
己演出力を身につけます。
日時や内容等詳しくは、1月11日
号の区のおしらせをご覧ください。
区及び女性センターホームページに
も掲載します。

我社はこうして取り組んでいます！

T O P I C S

トークとコンサート

「心の唄 in ブーケ21」に参加して

3月11日の東日本大震災以来、私もお他聞にもれず、何となく落ち着かない日々を過ごしていました。そんな時、「心の唄バンド」を聴きました。



木谷さんをはじめ、静かで落ち着いたメンバーの方々の演奏は、派手なパフォーマンスが多い昨今、実に新鮮に感じました。ご自身が「好きな曲」と選曲された唄は、素朴で装飾が無く、日本語の歌詞が活きているやさしい唄が中心で、聴いている私も同じくらい「好き」になりそうでした。いつも聞いていた曲があらためて心に浸みました。また、同世代でもある私には一緒に歌いながら「老後」を乗り切って行こうというメッセージも大いに伝わりました。

訪れた被災地の映像、何十年来提言している耐震の心構えなど、盛りだくさんで、2時間半があつという間でした。

事業協力スタッフ 橋谷信代



心の唄バンドは、東日本大震災の被災地を訪問し、演奏を通して被災地の方々の支援に取り組んでいます。

男女共同参画

次世代リーダーのための日帰り研修 in 墨田

2011年10月19日

リーダー研修 — ステキな出会いと交流

中央区女性ネットワーク会長 三田富貴子

4回目となる今年は、3月の大震災の影響もあって近場・墨田区での研修となりました。向島百花園では7代目当主佐原洋子さんから、百花園の歴史やご自身の生き方についてお話を伺いました。参加者からも「女性の強さやおやかさを身に付けた素敵な人」「今は稀少な“江戸前”の女性」との声が聞かれ、その自然と人を引き付ける魅力にすっかりファンになりました。



すみだ女性センターでは、男女共同参画と事業について説明を受けました。その後、女性団体の方々との交流が行なわれ、地域活動や男女のあり方について意見交換をしました。同じような生活環境で活動をしている方々との交流は意味深いものがありました。

向島を訪ねて

田中寿美

秋晴れの気持ちのよい朝の出発でした。佐原洋子さんの歴史のお話、戦争での焼夷弾の直撃、向島の被害など、驚きいっぱい聞き入りました。庭園の説明では、大木から雑草花までの説明で感謝でした。自然を守るため、柵一本にいたるまで自然との調和を考え一年をかけて草花、庭園全体を育てているとのこと。この次は萩の花のトンネルを夢見ております。



中央区・墨田区の交流会について

竹下寿子

午後からすみだ女性センターに移動しました。近くに来年開業のスカイツリーがあり、迎えて下さった墨田区の皆さんの表情も活気に満ちていました。

中央区・墨田区の交流会が始まり、それぞれの歴史、地域特性の違いをふまえて、他区の取り組みをお聞きする機会は大変意味のあることと思いました。



今年は特別な年です。私たちは3.11以来コミュニティ・絆の大切さを学びました。まず身近なところから、もろもろの課題を一つ一つ考えながら積み上げていきたいと思っています。



共有する—つなげる—ひろげる…

館長

雑記

▶3月11日の大災害の日からすでに8か月が経ちました。本格的な冬も近づき、被災地のことのほか厳しい状況が胸に迫ります。▶私の所属する小規模な団体も、岩手県の小さな町を中心に、支援の方向を模索し続けています。先日は、毎日の生活の中で、少しでもほっとする時間を持ってもらいたいと、仮設住宅の集会所でカフェを開き、おしゃべりの花を咲かせてもらいました。▶10月15日にブーケ21で行われた、南三陸を中心に音楽を通して支援を続ける「心の唄バンド」の演奏とお話は、音楽の持つ力をあらためて感じさせてくれました。なつかしい歌の数々が、被災地の方たちの心をどんなにか優しく包んだか、どんなにか暖かい気持ちを伝えたかなど、十分にわかりました。1階のグランドピアノが特別によい音を出したように思えたのも気のせいとばかりは言えません。バンドメンバーの被災地を思う気持ちをピアノだってわかっているのです。▶被災地の支援は、難しい面もたくさんあります。しかし、今は、それぞれの活動を細々とでも続けながら、それを共有し、つなげ、広げていくことが大切だと思いました。

(松川淳子)